

多文化共生コーディネーター研修

報告書

東京都内には多くの外国人住民が暮らしています。今後さらに増えることが予想される中、国籍や民族の異なる人々が地域社会の構成員として、共に生きていく多文化共生社会を実現することが重要になっています。

公益財団法人東京都つながり創生財団では、2016年2月に策定された東京都の「東京都多文化共生推進指針」に基づき、地域における外国人の多様なニーズにきめ細かく対応し、多文化共生社会の実現に資する専門人材である「多文化共生コーディネーター」育成のための研修を2017年度から実施しています。

本研修における「多文化共生コーディネーター」とは、外国人住民に関わる基本的な法制度と教育・医療・防災等、多文化共生の諸課題に関する知識を有し、そうした課題の解決に向けて、関係部署・団体間の連携や協働を進め、企画立案し、取り組む人を指します。

日時 2024年 6月10日(月)、6月17日(月)、6月27日(木)、7月4日(木) 9:00～17:00

会場 外国人在留支援センターFRESC大会議室 (新宿区四谷1-6-1四谷タワー 14階)

対象 都内区市町村及び国際交流協会、社会福祉協議会の職員、
多文化共生に関わる都内市民団体関係者等

内容

- ・多文化共生に係る概論及び各分野の基礎・基本に関する講義(グループワーク含む)
- ・振り返り(講義内容の整理及び意見交換)
- ・フィールドワーク(関係機関や団体を訪問)
- ・演習(課題解決に向けた今後3か年の活動プランの発表)
- ・外国人在留支援センター(FRESC)の見学(協力:東京出入国在留管理局)

受講者 35名(区市町村、国、国際交流協会、社会福祉協議会、市民団体、その他)

主催 公益財団法人東京都つながり創生財団

共催 東京都

**全体監修** 明治大学教授 山脇 啓造 氏

多文化共生の先進自治体と言えば、静岡県浜松市や群馬県大泉町あるいは新宿区のような基礎自治体を思い浮かべる人が多いかもしれません。確かに1990年代以降、外国人住民への対応を始め、2000年代以降、多文化共生の指針や計画を策定してきた自治体の多くは基礎自治体であったと言えるでしょう。一方、2018年12月に「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」が策定され、出入国在留管理庁の交付金を活用した自治体の一元的相談窓口が全国に整備されるようになると、そうした相談窓口を設置する余力のない基礎自治体を支援する都道府県の役割が大きくなっています。また、そうした基礎自治体の日本語教育や人材育成の支援も重要になっています。東京都の「多文化共生コーディネーター」研修は、現在、自治体が実施する全国唯一のプログラムで、毎年改善を重ね、他の道府県が参考にするモデル的な事業に育っています。他の道府県も同様な人材育成に取り組むことを期待したいと思います。



本研修ファシリテーターからのメッセージ

●一般財団法人自治体国際化協会認定 多文化共生マネージャー 長倉 美紀 氏

この研修は、生活者としての外国人を取り巻く現状を体系的に学ぶインプットの間であり、3か年計画の策定及び発表等、アウトプットの間をセットで用意しています。毎年テーマや研修の進め方を細かく見直し、できる限りタイムリーな学びとなるよう心掛け、フィールドワークでは実際に現場を訪れる機会を作っています。また、横のつながりを大切にしており、毎回参加者同士のコミュニケーションの間を設定しています。日頃話す機会のない様々な地域・立場の仲間と語り合うことができ、業務や活動に対する考え方の幅が広がります。私は特に、初めて多文化共生施策を担当する自治体職員の方々におすすめしたいです。ぜひ受講いただき、一緒に東京の多文化共生を創っていきましょう！



●公益社団法人日本図書館協会 多文化サービス委員会 副委員長 阿部 治子 氏

この研修では、さまざまな分野で活躍されている講師陣による講義やフィールドワーク、ディスカッションを通して、参加者同士が学びあい、励ましあい、つながることをめざしています。多文化共生社会の実現のためには、人と人がつながるきっかけを創るコーディネーターの力が何よりも大切ではないかと感じております。私は今期初めてファシリテーターとして参加させていただきましたが、みなさまから多くの学びをいただき、つながりを持てましたことに心より感謝しております。本当にどうもありがとうございました。



●公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 村松 清玄 氏

知識とつながりを育み、実践に繋げられる場、それがこの研修です。今年度も様々な立場の参加者が集い、想いや気づきがあふれる4日間になりました。また、第一線で活躍する実践者である講師陣を目の前に、生の声でその経験を聞けることも、この研修の大きな魅力です。研修前とはどこか違う気がする自分の中で、その余韻はなかなか消えません。

共に学んだ皆さんと、次は多文化共生の現場でお会いできることを楽しみにしています。そしてこれからも、この研修を通して仲間が増え続け、多文化共生の輪が広がっていくことを願ってやみません。



●公益財団法人目黒区国際交流協会 北爪 淑乃 氏

この研修は、「多文化共生」という共通意識のもとで多様な取り組みや関わり方をされている方が立場に関わらず集う貴重な場だと思います。

4日間を通して学ぶ多岐に渡るテーマでは、知識を深めるだけでなく現状や課題を知り、自身の立場と活動の中でどのように活かせるかを改めて振り返ることができます。私自身、参加者の熱意から多くの学びを得ると共に、原点に戻り新たな気づきもありました。

この場での出会いがコーディネーターのネットワーク作りに繋がり、より良い取組みの実現に向けて新たな連携を生むことを今後も期待します。



受講者からのメッセージ

●八王子市役所 市民活動推進部 多文化共生推進課 小林 慶治 氏

行政の職員として参加しましたが、立場の違う参加者(行政、NPO、社協等)の皆さんと繋がり、現状を共有し合う中で、所属する自治体の強みや改善できる点を明確にする貴重な経験ができました。もちろん、多文化共生分野の最前線で活躍される講師陣からの質の高い講義も他の研修には無い魅力です。事務局やファシリテーターの皆さんのフォローも素晴らしく、配属1年目の私でも安心して受講できました。



6月10日(月) 1日目

「多文化共生のこれまでとこれから」

多文化共生に係る行政の取り組みの歴史と今後の課題

明治大学教授 **山脇 啓造 氏**

多文化共生の定義、多文化共生に係る行政の取組の歴史と現状、ドイツ・韓国・台湾等、諸外国の取組及びインターカルチュラル・シティについて講義し、国の体制整備や教育における課題、「未来の東京」戦略ビジョン等について言及しました。

受講者の声

多文化共生にかかる地方自治体・国のこれまでの動きや今後のこと、諸外国との比較が示され、多面的な視点から多文化共生について理解が深まった。



「外国人相談」

① 東京都多言語相談ナビ(TMCナビ)

公益財団法人東京都つながり創生財団

多文化共生課 課長代理 **野村 雅美**

外国人住民や自治体窓口を対象とした電話相談窓口である東京都多言語相談ナビ(TMCナビ)、ウクライナ避難民関連事業の内容について説明したほか、相談員の研修や事例共有会、相談支援システムー東京都外国人相談サポートサイト(T-NETs)、東京外国人支援ネットワークについて紹介しました。

受講者の声

外国人相談の現状や効果的なアプローチなどを知ることができてよかった。外国人相談の実践を実例とともに捉えることができた。



② 外国人の法律相談

法テラス本部国際室長／弁護士 **富田 さとこ 氏**

法テラスの業務や法律相談の流れ、外国人の労働や婚姻等の法律問題と在留資格の関係について、相談事例をもとに説明し、専門分野は専門家に任せるという意識を持ち、適切な機関と連携することの重要性について話しました。

受講者の声

当事者の立場に立った支援の在り方を、わかりやすく教えていただいた。在留資格で支援方法や緊急性が異なること、適切な機関につなぐコーディネーターの役割が認識できた。



「情報提供」

多言語・多文化に配慮した外国人住民への情報提供

公益財団法人横浜市国際交流協会

多文化共生推進課担当課長 **中村 暁晶 氏**

外国人住民にとって価値のある情報を正確に発信するポイントについて、横浜市国際交流協会の取組み事例の紹介をとおして説明しました。また、受講者同士で講義の感想や地域における「情報提供」の取組みについて情報交換をするグループワークも実施しました。

受講者の声

外国人住民に対する情報発信において、意識すべきことは言葉(多言語)の伝え方だけでなく、どのような情報に価値を感じるかを考えることが必要であると学べた。



「コーディネーターについて考える パネルディスカッション」



多文化共生コーディネーターの意義と役割

ファシリテーターが自身の取組やコーディネーターの役割等について紹介したあと、それぞれの立場におけるコーディネーターとしての連携の在り方について、パネルディスカッションを行いました。

●一般財団法人自治体国際化協会認定 多文化共生マネージャー 長倉 美紀 氏

大学と協働した区立小中学校における日本語支援の取組みを紹介し、コーディネーターとして人や組織を連携・協働に導くための助言をしました。

●公益社団法人日本図書館協会 多文化サービス委員会 副委員長 阿部 治子 氏

地域住民(地域の一員)、支援団体(公益団体の委員・事務局)、自治体職員(豊島区職員)という3つの立場における自身の取組みについて紹介し、総合的な観点で求められるコーディネーター像を示しました。

●公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 村松 清玄 氏

シャンティ国際ボランティア会での活動をとおり、地域での多様な連携及びコーディネーターがいる支援のかたち等について紹介し、ネットワーク構築のヒントを伝えました。

●公益財団法人目黒区国際交流協会 北爪 淑乃 氏

地域日本語教室との連携、運営における取組み、多文化キッズコーディネーター(東京都助成事業)の役割等を紹介し、地域・行政・人との関わりについて言及しました。

受講者の声

それぞれの立場、様々な視点から現場の声をきくことができた。自分の現場にどう生かせるか、比較しながら考えることができた。

6月17日(月) 2日目

「日本語教育」

地域日本語教育とは

武蔵野大学教授、地域日本語教育とうきょう推進会議 座長 神吉 宇一 氏

日本語教育に関する国の施策及び東京都の取組みの紹介、地域日本語教育の必要性、現状と課題、外国人・外国ルーツの人との共生等について事例と問いを示しながら講義しました。グループワークでは、地域日本語教育を行うことで、共生社会や個人の幸せはどのように実現するのか及び言葉・言葉の教育が担う役割について考えました。



受講者の声

日本語教育の参照枠の理念を踏まえ、地域で人と人がつながりをつくるために言葉が必要であること、対話を通じてお互いを知り、共生社会を実現していくことなど地域における日本語教育の目的を学ぶことができた。

「子どもの教育」

外国につながる児童生徒の支援

国際交流基金日本語国際センター 所長、東京学芸大学 名誉教授 佐藤 郡衛 氏

外国につながる子どもの実態と課題、子どものキャリア支援や進路保障、国の政策動向等について講義しました。また、多文化共生コーディネーターへ期待することとして、必要な心構えや取組み、連携等について話しました。



受講者の声

多様で柔軟な教育方法を取り入れることで、子どもたちの潜在能力を最大限に引き出すことが、教育の最終的な目標であることを深く理解しました。

「労働」

1 外国人の就労支援

ハローワーク新宿 新宿外国人 雇用支援・指導センター 統括職業指導官 **木村 円 氏**
ハローワーク新宿における各施設の特徴や違い、外国人雇用の現状、外国人求人者向け支援、外国人雇用の対策(事業主向け支援)について紹介しました。

受講者の声

支援内容がとても様々なものがあり、勉強になった。また、それぞれの立場(相談者の立場)によって拠点が分けられていることを知ることができてよかった。



2 労働相談

東京労働局 外国人特別相談・支援室 副室長 **柴田 優 氏**

労働契約、解雇と退職、賃金等に関する基本的な知識について、相談事例を交えて説明しました。

受講者の声

窓口相談に来る方の中には就職問題、労働問題をかかえている方が多いので、今後の相談業務にとっても役にたつことばかりでした。



「災害対応」

多文化共生社会における防災の課題とコーディネーターに求められる視点

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 **羽賀 友信 氏**

長岡市の協働型災害対応について紹介し、災害時における外国人支援の在り方や価値ある情報発信等について、豊富な経験をもとに講義しました。また、グループワークでは災害を想定して対策を考え、発表しました。

受講者の声

外国人も支援の担い手として巻き込むこと、また各団体が平時から連携していく協働型災害対応の必要性について認識することができた。



6月27日(木) 3日目

「フィールドワーク」／「フィールドワークの振り返り・報告」

4グループに分かれて関係機関や団体を訪問し、振り返りを実施後、代表者が報告を行いました。

1 特定非営利活動法人 IWC 国際市民の会 (外国につながる子どもたちへの学習支援等)

受講者の声

理事長や副理事長の活動にける想いを伺う事が出来た。団体の活動概要にとどまらず、実際の授業の様子を拝見できてよかった。



2 東京外国人材採用ナビセンター及び東京外国人雇用サービスセンター (留学生を含めた外国人の就職、転職支援など)

受講者の声

- ・東京外国人材採用ナビセンター及び東京外国人雇用サービスセンターの違いが明確になりよかった。
- ・行政(厚労省、東京都)などの外国籍就労者に対する手厚い支援の仕組みを知ることができた。



3 しんじゅく多文化共生プラザ及び大久保街歩き

(外国人に関わる支援や取組み／多様な文化が融合する大久保地域の特徴や変遷を解説)

* 大久保街歩き案内人: 公益財団法人新宿未来創造財団 小林 久夫 氏

受講者の声

- ・様々な支援が展開されていることが分かった。
- ・区として、外国人だけでなく、様々なステークホルダーを交えた取組みが行われていた点に感銘を受けた。
- ・様々なルーツを持つ方たちがたくましく共存している新大久保についてさらに関心が高まりました。



4 大久保図書館及び大久保街歩き

(図書館における多文化共生の取組み／多様な文化が融合する大久保地域の特徴や変遷を解説)

* 大久保街歩き案内人: 新大久保語学院 院長／DEKIRU株式会社 代表 李 承珉 氏

受講者の声

- ・地域性に根付いた外国の方々との多文化共生の視点での場づくりがされていた。利用する人々の顔が見える取組みが参考になった。
- ・大久保のまちに外国人が来たことで、どのように変化していったのかを知ることができた。



「医療・保健」

1 外国人住民の医療・保健をめぐる状況

国際医療福祉大学大学院 准教授 岡村 世里奈 氏

多様化する外国人患者及び医療機関の現状と課題、医療機関の受診方法、入院手続き等、医療文化・医療習慣の違い、国の外国人医療施策の概要と変遷等について講義しました。

受講者の声

外国との医療システムの違いなど、今まで意識したことがありませんでしたが、そういった知識も持つことの重要性を感じました。



2 東京都における取組

東京都保健医療局 医療政策部 医療政策課 医療改革推進担当 課長代理 川井 裕和 氏

東京都における医療機関への外国人患者受入に係る支援、外国人患者への医療情報の提供、地域における外国人患者受入環境整備等の取組について紹介しました。

受講者の声

東京都における医療行政の遍歴を知ることができ、興味深かった。医療者向けのサイトは支援者も利用できると思いました。



「福祉」

1 地域における包括的外国人支援

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会 CSW担当チーフ 宮坂 誠 氏

社会福祉協議会とはどのような組織であるか、豊島区における外国人区民の状況、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の取組み及び事例紹介、特例貸付、外国人支援に関する課題、地域との連携・協働体制等について話し、今後の課題について言及しました。

受講者の声

自治体とNPOのそれぞれの強みを活かした連携、活動の3本柱に「支援される側のエンパワメントをはかり、支援する側に転換する」のが参考になった。それぞれの経験が活きる支援の形が良いと思いました。



2 ちよだのボランティアの取り組みと外国人支援

社会福祉法人千代田区社会福祉協議会ちよだボランティアセンター
地域支援課地域サポート係長(ちよだボランティアセンター副センター長)

清水 昌代 氏

千代田区の現状、ボランティアによる支援と外国人支援、見えてきた課題と新たな取り組みについて事例を交えて紹介しました。

受講者の声

ニーズをくみ取り、ボランティア養成、アートを使った居場所づくり、アウトリーチ活動など、多様な取り組みが広がっている様子が勉強になりました。



7月4日(木) 4日目

「意識啓発」

多様性や人権尊重等多文化共生の意識づくり

漫画家・タレント 星野 ルネ 氏

カメルーンで生まれ、日本で育った経験から考える多様性や人権尊重について、漫画を用いながら話しました。多文化共生の意識づくりには、接点を持ち、互いを尊重し、議論を重ねる必要があることを伝えました。

受講者の声

一方的な見方ではない、双方向からの見方、事情を理解していくことの大切さを非常にわかりやすく伝えてくださった。



「社会参画」

外国人住民による社会参画

出身国や来日背景の異なる3名のパネリストが、自身の移住・定住の経験や日本での社会参画について、山脇啓造氏の進行でパネルディスカッションを行いました。

●神奈川県立相模向陽館高等学校 非常勤講師 大城 スサーナ 氏

ペルーで生まれ、子ども時代にアルゼンチンでの生活を経て日本へ移住した経験から、良かったこと、大変だったこと、地域や周囲のサポートで助けられたこと、日本社会で学んだことや20年ぶりにペルーに帰国し感じたことについて話しました。

●新大久保語学院 院長／DEKIRU株式会社 代表 李 承珉 氏

韓国人コミュニティの活動をとおして地域活動に参加したことや地域住民との交流、新宿区の多文化共生に関する会議への参加、イベントの主催等、市民としての社会参画について話しました。

●漫画家・タレント 星野 ルネ 氏

「意識啓発」の講義に引き続き、カメルーン及び日本での生活、経験をもとに、ほか2名のパネリストとの比較や自身の体験や考えについて話しました。



受講者の声

- ・様々な経緯で日本に来て、日本社会との関わりも異なる3名の方の社会参画の経験をお聞きできて良かった。
- ・日本に来る理由、以降の経験、生き方、考える将来、まさに多様であることを改めて感じる。ステレオタイプの「外国人」ではなく、一人一人と丁寧につながることを大切にしたい、それを伝えていきたいと思った。

「演習ワーク」／「活動プランの発表・ポスターセッション」

コーディネーターとしてどのように課題解決に取り組むのかを話し合い、グループで3年間のプランを検討してポスターにまとめ、発表しました。発表後のポスターセッションでは、活発な意見交換が行われました。



受講者の感想

- 外国人住民にかかわる基本的な法制度、教育、医療、防災等、多方面から多文化共生について理解を深めることができました。
- 今後の関係者のネットワークが増えたことはもちろん、周囲には、多文化共生社会にむけて様々な活動をされている方・組織が多くあることを知り、心強く感じました。
- 多面的な視点での問題提起、多分野からの講師、多機関からの出席者と、とても学びの多い4日間でした。30年を超える役所人生でこれほどまでに、エネルギーを感じた研修は初めてだった。
- 自治体職員だけでなく、社協や日本語ボランティアなど、様々な立場の方々と話ができて、網羅的な講義を受け、確実に多文化共生分野の引き出しが広がった気がします。
- さまざまな関連機関の方とお話しし、取り組みを共有しあう大変貴重な機会となりました。最後のポスターセッションでも様々な角度から今後の取り組みが発表され、実のある時間となりました。



公益財団法人
東京都つながり創生財団
Tokyo Metropolitan Foundation "TSUNAGARI"

〒163-0808 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル8階
Tel 03-6258-1236 Fax 03-6258-1228
Email coordinator@tokyo-tsunagari.or.jp
Website <https://www.tokyo-tsunagari.or.jp>